

中国河南省と富山県との交流（急告）

富山県農村医学研究会 会長

越山 健二

去る（平成4年）4月19日河南省衛生庁副所長、対全喜氏（外科副教授）及び同医政処長、秦大錚氏、同科教処長、張振東氏等と越山等が河南省の招きで、省都である鄭州市にある衛生庁で会談した。対氏は河南省の概況や初期保健活動状況について、越山は富山県、及び日本の保健、医療状況について2時間余りにわたってお互いに報告、懇談した。最後に富山県と河南省との間で農薬中毒及び農業傷害事故聯合調査協議書の調印を行った。

この事は独断先行とも思われるので後刻詳細報告する予定です。

河南省は世界4大文明の1つ黄河文明の発生の地であり、その歴史は紀元前15世紀（殷代）から明らかにされ、省都鄭州市は北京と広州を結ぶ京広線と上海とムルウチ、蘭州を結ぶ隴海線と交わる交通の要所である。黄河を制する者は中国を制すといわれ、中原として幾多の王朝が興亡を繰り返し、ここを都とした都市が洛陽、開封、安陽、鄭州と中国7大古都のうち4都市があり総人口は四川省に次いで多く8,773万人である。そのうち農村人口は86.4%で農業生産物も多く、日本との交

流も近年多くなっているという。保健、医療施設など富山県とは量、質共に比較にならず、膨大で遅れている面もあるが、学ばなければならぬ面も多いと思う。

いま中国は改革、開放の政策が進められ、急速に変化しているように感じた。鄭州市の人口は150万人、街は美しく整理され、婦人の服装も色彩豊かで、明るい雰囲気があった。

河南省は日本との交流を求めており、交誼長存の旗のもとお互が連帯と協力して健康が求める。身体的、精神的、かつ家庭や地域社会の調和のとれた保健の立場にたつて、人間は勿論、自然環境等の調査、研究が重要と考え、その第一歩として調印したものである。

河南省では、保健、医療に限らず、今後、政治、経済、文化等、あらゆる面を通し交流をすすめる。多くの文化遺跡や、衣、食、住を含めた伝統文化に親しみながら、継続して豊かな21世紀に向けて往来を密にしたいと望んでいます。詳細は逐次発表しますが、一部調査は既にはじまっています。

中国河南省和日本富山县 农药中毒及农业伤害事故联合调查协议书

随着农村经济和农业生产的高速发展, 农药中毒及农业伤害事故的病例日益增多, 严重危害农业劳动者的安全和健康。为了解中日两国农村农药中毒及农业伤害事故发生的现状, 探索有效的防治途径和方法, 双方认为组织联合调查和研究, 对于增进农村居民的健康和实现“2000年人人享有卫生保健”是很有意义的。现提出协议项目如下:

一、调查对象: 1991年元月1日至12月底居住农村的男女性居民。

二、调查内容:

- 1、农业中毒病例;
- 2、农业机械伤害病例;
- 3、非农业机械伤害事故病例;

三、调查范围: 中国河南方面调查1-2个县。日本方面由富山县农村医学研究会确定。

四、调查方法: 中国方面对伤害事故采取问卷调查法; 对农药中毒采取表格调查法。日本方面使用既定的类似方法。

五、结果分析与研究: 首先由双方分别写出调查报告。互换调查报告后分别进行比较研究, 写出对比分析结果。然后, 双方在适当的时间和地点进行座谈讨论, 达成一致意见, 并就发表调查结果事宜进行磋商。

中方代表(签字):

秦大峰 4.19

日方代表(签字):

越山健二

一九九二年四月十九日